第１学年４組　音楽科学習指導案

指導者　小幡　貴子

１　題材名　　言葉のリズムを感じて旋律をつくろう

教材名・『トモダチ』（ケツメイシ）　　・金子みすゞ詩「空の色」「大漁」

・金子みすゞ詩による歌曲『わたしと小鳥とすずと』（中田喜直　作曲・石若雅弥編　作曲）

２　題材について

≪学習指導要領とのかかわり≫

A　　表現　（３）ア　言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して旋律をつくること
〔共通事項〕　リズム　旋律　構成

（１）　題材観

音楽科における創作活動では、生徒自身が感じ取る対象や思考・判断していく過程を明確にして、〔共通事項〕とのかかわりの中で、学習内容を厳選し指導と評価の一体化を図ることが重要である。

本題材では、感じ取る対象を文章や文節、単語などのアクセントやリズム、抑揚を手掛かりにしながら簡単な旋律を創作し、表現力を高めることを目指している。さらに、主体的に練習したり協力して工夫したりしながら、「考える→試す→考える→…」といった思考・判断する学習の充実を図っていく。

生徒は、普段の生活の中では言葉のもつアクセントやリズム、抑揚を特に意識せず自然に表現している。この無意識下にあるものを意識化すれば、身構えることなく、自然なリズムや旋律をつくることができると考える。

創作の活動ではイメージをもつことが大切である。本題材では、イメージを深めるために「詩」を取り上げる。音の並べ方やつなげ方について、詩から得たイメージを根拠にして説明する場面を設定し、旋律そのもののよさや美しさなどを感じ取らせ、旋律線のもつ特徴などの理解を深めさせる。

学習を進めるにあたっては、音や音楽を媒体としての生徒同士のかかわりが重要であると考える。言語活動を支えとしながら、思いや意図を、音楽を通して相互に伝え合う場面を積極的に設定する。

（２）生徒の実態（男子 21 名、女子 17 名、計 38 名）

本校の生徒は、音楽活動全般に対して意欲的に取り組んでいる。１年生は歌唱活動において、明るくエネルギッシュな歌声を響かせるなど、多くの生徒が自己を開放して表現することができている。

また、小学校ではリズム遊びや音楽づくりを楽しんで経験してきている。リズムカードの提示に対するリズム打ちの反応がよく、リズム学習の基礎が定着している。そこで、小学校で経験した内容に加えて様々な手立てを講じていくこととした。中学校で初めて行う旋律創作の活動に意欲的に取り組み、楽しく進めたいと考えた。そして、旋律を「自らつくった」という達成感と自信を持たせ、今後の表現活動への意欲につなげたい。

（３）指導観

創作の学習では、難しい理論を使わずに「簡単に音楽をつくることができる」ことを実感させることが第一条件であると考える。そこで、本題材ではスモールステップを踏みながら、無理なく旋律創作に取り組ませていくこととした。

まず、言葉とリズムとの関係を理解するために「ラップづくり」を体験させ、中学校における創作の学習が、身近な音楽とつながっているのだという実感をもたせる。ポピュラー音楽の中から、ラップや J-POP を取り上げ、これらの音楽が口語に近い抑揚を模倣してつくられていることに気付かせ、言葉のもつリズムと音楽が密接に結び付いていることを理解させ、その面白さを感じ取らせていく。

次に、簡単な単語や文節を用いて、リズムや抑揚に合う音をあてはめた旋律創作をする。この段階で

は、すべての生徒がリズムや旋律の特徴を感じ取れると考える。一方で、単語や文節のリズムや抑揚だけでは、型にはまった旋律が出来上がることになり、学習の広がりとしては不十分なものとなってしまうので、指導計画第二次においては、イメージとかかわらせながらリズムや旋律を工夫させていく。

指導計画第二次では、生徒たちにもなじみがあり、イメージを豊かにふくらませることができる金子みすゞの詩を取り上げる。金子みすゞの詩をじっくりと味わわせ、リズムや旋律の知覚・感受からイメージをもたせ学習を進めていく。学習活動の中では、「実際に手拍子を打つ」「キーボードを弾く」など、必ず音を出してつくるように助言する。また、詩から得たイメージをワークシートに記述するなど、言葉による説明も学習の重要な支えとする。中間発表を行って感想を交換し合うなど互いの作品のよさを共有し、改善を加えながら学習活動を発展させたい。

〔共通事項〕を支えとして、生徒が表現しようとするイメージを音や楽譜として具現することを学習目標に設定することにより、明確な意図をもって試行する創作活動が可能となる。そして、主体的に練習したり協力して工夫したりするようになり、音楽科における表現力の高まりにつながるものと考える。

３　題材の目標

・言葉のもつアクセントやリズム、抑揚を感じ取り、それらを手掛かりとし、創意工夫して簡単な旋律をつくる。

４　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①単語や文節のもつアクセントやリズム、抑揚の特徴に関心をもち、それらを生かして短い旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①リズム・旋律を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、単語や文節のもつアクセントやリズム、抑揚を生かしてリズムの組み合わせを工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	①単語や文節のもつアクセントやリズム、抑揚を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方を身に付けて、旋律をつくり、思いや意図を表現している。

５　研究の視点について

【視点２】思いや意図をもって表現したり、聴いたりする力の育成

「思いや意図」は、自分らしさにこだわった音をつくり出したり、自分なりの創意工夫を生かした音楽を生み出したりするときにもつものと考える。何となく分かっていることやおぼろげに感じていることを意識させ、知覚した音楽を形づくっている要素の働きが生み出すよさや面白さ、特質など一人一人が感受したことを明確に表現させたい。さらに生徒自身がみずから音楽をつくる喜びや実感をもてるように以下のように手立てを工夫する。

まず、共通の指導内容となる「音楽を形づくっている要素」を、「リズム」と「旋律」に限定した。具体的には、①言葉のもつリズムに合わせた様々なリズムの選び方、②言葉の抑揚に合った音の並べ方、③旋律（上行形、下行形、跳躍進行、順次進行）の並べ方である。これらの要素を、自己のイメージに合うように試しながら旋律をつくっていく。このような学習過程を経た作品は、一人一人の思いや意図を反映し創意工夫ある旋律となり、表現力の育成につながると考える。

６　題材の指導計画（４時間計画）

<table>
<tr><th>次</th><th>時</th><th>○学習内容　・主な学習活動</th><th>評価規準</th></tr>
<tr><td rowspan="4">第一次</td><td colspan="3">ねらい　言葉のもつリズムや抑揚に関心をもち、特徴を感じ取る。</td></tr>
<tr><td>第１時</td><td>○言葉のもつリズムを知覚・感受する。
・ラップ曲（トモダチ＜ケツメイシ＞）を鑑賞し、言葉とリズムが組み合わさった音楽表現の面白さを感じ取る。
○言葉の自然なリズムを感じ、音符とのかかわりについての学習の見通しをもつ。
○提示したリズムパターンに合う言葉を、自分のイメージとかかわらせながら考え、２小節（４分の４拍子）のリズムをつくる。
・４つの言葉をつなげて２小節のリズムをつくる。
○作品を発表し、聴き合う。</td><td>単語や文節のもつアクセントやリズム、抑揚の特徴に関心をもち、それらを生かして短い旋律をつくる学習に主体的に取り組んでいる。
（音楽への関心・意欲・態度①）</td></tr>
<tr><td colspan="3">ねらい　言葉の抑揚（高低のアクセント）を生かして２小節の旋律をつくる。</td></tr>
<tr><td>第２時</td><td>○言葉のもつアクセントやリズムと、音符とのかかわりを知覚・感受する。
・「Let it go（日本語版）」の歌詞の一部を音読し、言葉には抑揚（高低のアクセント）があることを知る。
○簡単な言葉（単語）について、抑揚を生かした旋律の作り方を知る。
・８種のリズムパターンにあてはめた言葉の抑揚を線で表す。
・抑揚の線にそって、ミ・ソ・ラの３音をあてはめていく。
・五線譜に記入する。
○言葉のリズムと抑揚を生かして２小節の旋律をつくる。
・手順に沿ってつくり、全体の流れがスムーズになるよう音を並べる。
○つくった旋律を発表し合い、よさを共有する。
○学習の振り返りをする。</td><td>リズム・旋律を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、単語や文節のもつアクセントやリズム、抑揚を生かしてリズムの組み合わせを工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。
（音楽表現の創意工夫①）
単語や文節のもつアクセントやリズム、抑揚を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方を身に付けて、旋律をつくり、思いや意図を的確に表現している。
（音楽表現の技能①）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第二次</td><td colspan="3">ねらい　言葉のリズムや抑揚を感じ取りながら、表現を工夫し、詩のイメージにあった簡単な旋律をつくる。</td></tr>
<tr><td>第３時（本時）・第４時</td><td>○言葉のリズムと抑揚を生かして、各自が選んだ詩について４小節の旋律をつくる。
・金子みすゞの詩「大漁」「空の色」の朗読を聴き、言葉のリズムと抑揚を知覚・感受する。
・＜旋律づくりの手順＞にしたがってつくる。
○作品を発表する。
○旋律の特徴から作曲者の思いや意図を感じ取り、鑑賞する。
・友達の作品を聴いて、詩のどの部分を使ったのかを考える。
・金子みすゞの歌曲「わたしと小鳥とすずと」を比較鑑賞する。
○学習の振り返りをする。
・旋律をつくるときに気を付けたことや工夫したところを記入する。
・友達の作品を聴いて、言葉のイメージが表現されているかについて記入する。</td><td>単語や文節のもつアクセントやリズム、抑揚を生かした音楽表現をするために必要な、音の組み合わせ方、記譜の仕方を身に付けて、旋律をつくり、思いや意図を的確に表現している。
（音楽表現の技能①）
リズム・旋律を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、単語や文節のもつアクセントやリズム、抑揚を生かしてリズムの組み合わせを工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。
（音楽表現の創意工夫①）</td></tr>
</table>

7　本時の学習（３／４）

（１）本時の目標

・言葉のリズムや抑揚を感じ取りながら表現を工夫し、詩のイメージにあった簡単な旋律をつくる。

（２）　展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり　◆評価規準
１　前時までの学習の確認をする。 ・リズムカード（音符・休符・リズム）を読む。	○リズムの確認をし、音楽づくりの導入をする。
２　本時の学習の見通しをもつ。 ・学習課題を理解する。	○言葉や詩の内容から受けるイメージをもとに音を並べ、言葉の抑揚（高低）を生かした旋律創作を行うことを伝える。
言葉や詩の内容から受けるイメージをもとに、言葉のリズムや抑揚を生かしてまとまりのある旋律をつくろう	
３　言葉のリズムと抑揚を生かして、各自が選んだ詩の中の一文について、４分の４拍子・２～４小節の旋律をつくる。 ・金子みすゞの詩「大漁」「空の色」の朗読を聴き、言葉のリズムと抑揚を知覚・感受する。 ・「なぜ青い」の部分を例として、創作の手順を確認する。 ・選んだ詩の中の一文について、言葉そのものや詩の内容から受けるイメージをもとに、<旋律づくりの手順>にしたがってつくる。 <旋律づくりの手順> ①リズムパターンは計１２種から選ぶ。 ②抑揚線を決める。 ③使用する音はハ長調音階[ド(1点ハ)～ド(2点ハ)]。 ④同じリズムは２回まで使用してよい。 ⑤イメージから、「ランクアップリズム（４種類)」のパターンを使用して、リズムを変更可。	○一行の場合は２小節、二行の場合は４小節の創作とし、ワークシートを活用させる。 ○楽器を用いて、音の組合わせ方や並べ方を様々に試しながら考えるよう助言する。 ※使用する楽器 ・ソプラノリコーダー・キーボード・鍵盤打楽器 ○机間巡視し、教師が演奏するなどして旋律の流れを確認させる。 ○生徒の工夫の実態に合わせて、単語や文節の持つアクセントやリズム、音の組合わせ方、記譜の仕方を助言し、旋律づくりに取り組ませる。
４　中間発表をする。 ・互いの作品を聴き合い、共通点や異なる点等について話し合う。	○２～３名の生徒の作品を発表する。 ○友達の作品を聴き、どの部分の詩を用いたかを問いかけ、その理由も発表するように助言する。
５　自分の作品について、振り返りをする。 ・イメージにふさわしい音の並べ方を考える。 ・五線譜も記載されたワークシートを活用し、記譜をする。	○リズムや旋律線に自分のイメージが表現されているか、友達に伝わったかについて考えるよう助言する。 ○記譜が困難な生徒は、片仮名で階名のみ記入でもよいことを助言する。 ◆単語や文節のもつアクセントやリズム、抑揚を生かした音楽表現をするために必要な、音の組合わせ方、記譜の仕方を身に付けて、旋律をつくり、思いや意図を表現している。 （音楽表現の技能①） 〈ワークシート〉
６　学習の振り返りをする。 ・旋律をつくるときに気を付けたことや工夫したところについて振り返り、自分の旋律を確かめる。 〔リズム、旋律、構成〕	